

目 次

第 1 章	総 則	1
第 1 節	目 的	1
§ 1	目 的	1
第 2 節	ガイドラインの適用範囲	4
§ 2	ガイドラインの適用範囲	4
第 3 節	ガイドラインの構成	4
§ 3	ガイドラインの構成	4
第 4 節	用語の定義	7
§ 4	用語の定義	7
第 2 章	技術の概要と評価	9
第 1 節	技術の概要	9
§ 5	技術の目的	9
§ 6	技術の概要	11
§ 7	技術の特徴	13
§ 8	DHS ろ床の概要と特徴	16
§ 9	生物膜ろ過施設の概要と特徴	20
§ 10	技術の適用条件	21
§ 11	導入シナリオ	25
第 2 節	実証研究に基づく評価の概要	29
§ 12	技術の評価項目と評価方法	29
§ 13	技術の評価結果	31
第 3 章	導入検討	34
第 1 節	導入検討手法	34
§ 14	導入検討手順	34
§ 15	基礎調査	35
§ 16	設置可否の検討	37
§ 17	導入効果の検討	39
§ 18	導入判断	45

第 2 節	導入効果の検討例	46
第 4 章	計画・設計	52
第 1 節	導入計画	52
§ 19	計画の手順.....	52
§ 20	基本事項の把握.....	53
§ 21	設計条件の設定.....	54
§ 22	施設計画の検討.....	56
§ 23	施設配置の検討.....	57
§ 24	導入効果の検証.....	59
第 2 節	施設設計	60
§ 25	施設設計の全体的な考え方.....	60
第 3 節	DHS ろ床	62
§ 26	施設構成.....	62
§ 27	DHS ろ床の設計.....	63
§ 28	既設改造の留意点.....	66
第 4 節	生物膜ろ過施設	67
§ 29	施設構成.....	67
§ 30	生物膜ろ過施設の設計.....	68
§ 31	既設改造の留意点.....	70
第 5 節	その他付帯施設	71
§ 32	前処理施設.....	71
§ 33	付帯施設.....	73
第 6 節	その他留意点	74
§ 34	再更新時のダウンサイジング手法.....	74
§ 35	環境対策.....	75
§ 36	監視制御システム.....	76
§ 37	汚泥処理設備への影響.....	79
第 5 章	維持管理	80
第 1 節	システム全体としての管理	80
§ 38	本技術の立上げ方法.....	80
§ 39	本技術の基本運転方法.....	82
§ 40	維持管理体制.....	83

第2節	運転管理	84
§ 41	DHS ろ床.....	84
§ 42	生物膜ろ過施設.....	85
§ 43	水質管理.....	87
§ 44	環境対策.....	88
第3節	保守点検	89
§ 45	保守点検.....	89
第4節	異常時の対応と対策	93
§ 46	異常時の対応と対策.....	93

資料編

1.	実証研究内容	96
1.1	実証研究概要.....	96
1.2	実証研究結果.....	99
2.	ケーススタディ	111
2.1	設計条件.....	111
2.2	処理フロー.....	111
2.3	容量計算.....	111
2.4	機器リスト.....	114
3.	標準活性汚泥法のダウンサイジング性能（参考）	117
3.1	電力使用量原単位.....	117
3.2	薬品使用量原単位.....	118
3.3	汚泥発生率.....	118
3.4	脱水性能.....	120
3.5	脱水機供給汚泥濃度.....	120
4.	海外等への適用の留意点	121
5.	須崎市終末処理場におけるダウンサイジング効果	122
5.1	施設諸元.....	122
5.2	試算範囲.....	123
5.3	試算条件.....	123
5.4	ダウンサイジング性能.....	124
6.	問い合わせ先	126